



ブンゾーとゆめつちいがお出迎え

武豊町

# 協働のまちづくり

## 「21世紀のまちづくり」

武豊町では第31回 国民文化祭の開催に合わせ、  
合い言葉に「協働のまちづくり」

### 【武豊町国民文化祭実行委員長 高木正博】

今回のフォーラムを終え、私が強く思ったことは、出演者も含め会場にいた全員が「どうしたらみんなが幸せに生きていけるのだろうか?」と考えていたのではないかとことです。

初山町長も来賓の方も、地域の人たちが幸せに暮らすためには、きめ細かい行政サービスが大切だが、それには協働のまちづくりの推進が重要と話していました。その後のパネルディスカッションでは、小林真理東京大学大学院教授をコーディネーターとして、水戸雅彦えずこホール館長、中本正樹小美玉市市長公室政策調整課主幹、岩崎孔二豊岡市民プラザ館長・NPO法人コミュニティーアートセンタープラッツ代表理事と、竹本義明武豊町民会館館長による真剣で有意義な話し合いがされました。

地域の文化拠点としての劇場・ホールは、文化の向上に大きな力を発揮し、そこで磨かれた豊かな感性が人生を、そしてまちをかえる力になる。しかし、行政職員だけの運営には限界があり、それを乗り越え多くの人に文化の楽しさを届けるためにも、市民参加型の運営や事業を実施し、市民に開かれた文化施設を目指す必要があること。また、今後の課題として、「人材育成」と「官民協働のすすめ方」が議論され、継続的な協働が成り立つためにも、官も民もどのような人がどのような気持ちで担い合うかが重要で、現在関わっている人たちが将来を見通して手を打っていく必要があることが話し合われました。

お客様に楽しんでもらおうと熱いパフォーマンスを繰り広げる出演者、どうしたらこれからの文化施設がたくさんの人の心を豊かにして、地域の誇りを作っていくのだろうか?と真剣に話し合ったパネリスト、どれをとっても会場のそして地域の人たち全ての「幸せ」を願っていることを感じました。それは、劇場・ホールを支えているスタッフ全員に通じるものだと思います。

竹本館長が小林先生の質問に、「(町民会館のスタッフが) 苦労して悩んでいる様子は見たことがない。いつも、達成感が先にあるように見える」と答えていたのが印象に残っています。その達成感を与えてくれるのは、素晴らしい演者のパフォーマンスと、多くのお客様の笑顔です。

「どうしたらみんなが幸せに生きていけるのだろうか?」。フォーラムに参加した全員が、夢をもって前に進む力を得たのではないかと思います。

